

【添付資料】出演者プロフィール

玉置浩二

1958年生まれ。北海道出身のシンガーソングライター。1982年バンド「安全地帯」としてデビュー。「ワインレッドの心」、「恋の予感」、「悲しみにさよなら」など80年代の音楽シーンを席巻。ソロ活動で作詞も手がけ始め、「田園」「メロディー」をはじめとする多くのヒットを生み出す。2012年には、オリジナルレーベル「SALTMODERATE」を発足。安全地帯とソロの活動を並行して行いながら、2014年、7年ぶりとなるオリジナル・ソロ・アルバム『GOLD』、そして同じ時代を共有してきたアーティストの名曲を歌ったアルバム『群像の星』をリリース。2015年・2016年、国内外の主要オーケストラと共演するビルボードクラシックス公演を実施。2016年6月、バルカン特別編成交響楽団に管弦楽作品「歓喜の歌」を謹呈。2017年、ソロデビュー30周年そして安全地帯デビュー35周年というダブルアニバーサリーイヤーでは、日本武道館で開催した安全地帯35周年記念ライブでは2日間で2万5000人の動員を記録した。2018年・2019年もオーケストラ公演、ソロツアーと精力的に活動。2019年11月安全地帯として約30年ぶりのスタジアムライブ「安全地帯 IN 甲子園球場 さよならゲーム」を敢行、3万8000人を動員し、圧倒的なボーカル力で観客へ感動をもたらした。2020年12月23日、6年ぶりとなるニューアルバム『Chocolate cosmos』をリリース。

オフィシャルサイト <https://saltmoderate.com/>

柳澤寿男（指揮）

2005-2007年、マケドニア旧ユーゴ国立歌劇場首席指揮者。

2007年、UNMIK 国連コソボ暫定行政ミッション下のコソボフィル響首席指揮者に就任。

同時に、サンクトペテルブルク響、プラハ響、サラエボフィル、セルビア放送響、ベオグラード国立歌劇場、アルバニア放送響等に客演。2007年、バルカン半島(特に旧ユーゴスラヴィア)の民族共栄を願って、バルカン室内管弦楽団を設立。2016年、国連欧州本部総会議場(在ジュネーヴ国際機関日本政府代表部・国連欧州本部主催)で演奏を披露。2019年には、コソボの芸術・文化の発展とバルカン室内管弦楽団を通じた地域和平への尽力によりコソボ大統領勲章(文化功労賞)を叙勲される。

日本国内では、新日本フィル、日本フィル、東京フィル、東京都響、東京響、東京シティ・フィル、札幌響、仙台フィル、群馬響、名古屋フィル、京都市響、大阪フィル、日本センチュリー響、関西フィル、兵庫芸術文化センター管、九州響、アンサンブル金沢等に客演。

現在、バルカン室内管弦楽団音楽監督、コソボフィルハーモニー交響楽団首席指揮者、ベオグラード・シンフォニエッタ名誉首席指揮者、東北ユースオーケストラ指揮者、京都フィルハーモニー室内合奏団ミュージックパートナー。著書に「バルカンから響け！歓喜の歌(晋遊舎)」。

円光寺雅彦（指揮）

1954年東京生まれ。桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を斎藤秀雄氏、ピアノを井口愛子氏に師事。

1980年ウィーン国立音楽大学に留学し、オトマール・スウィトナーに師事する。

1981年9月に帰国後、東京フィルハーモニー交響楽団副指揮者に就任。1986年より同団指揮者となり、1991年3月までその任を務める。

1989年より1999年3月まで、仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者としてオーケストラの飛躍的な発展に貢献、その実績は高く評価されている。東京特別公演のライブをはじめ、円光寺・仙台フィルの演奏は多数CD化されており、その演奏からもオーケストラと指揮者の密接な関係を窺う事ができる。

1998年5月より2001年4月まで札幌交響楽団正指揮者を務め、2000年3月には東京公演(サントリーホール)を指揮して好評を博すなど、両者の取り組みは高く評価された。

NHK 交響楽団、読売日本交響楽団、大阪フィル、東京フィル、新日本フィルをはじめとするほとんどの国内オーケストラ、海外では1992年スメタナホールにおけるプラハ交響楽団定期演奏会への客演をはじめ、1994年BBC ウェールズ交響楽団、1995年にはドミトリー・キタエンコからの招きによりノルウェーのベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、1998年1月にはフランス・ブルターニュ管弦楽団に客演し、深い音楽性と適確な指揮で多くの聴衆を魅了してきた。

NHK「名曲アルバム」や「おーいニッポン」「あなたが主役～音楽のある街で」「あなたの街で夢コンサート」等の番組にも定期的に出演など、幅広い活躍を続けている。

2011年から正指揮者を務める名古屋フィルとは2018年4月で8シーズン目を迎える。

桐朋学園大学院大学特別招聘教授。

新日本フィルハーモニー交響楽団

1972年、指揮者・小澤征爾のもと楽員による自主運営のオーケストラとして創立。97年、墨田区に移転。すみだトリフォニーホールを活動の本拠地とし、日常の練習と公演を行う日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会や特別演奏会の他、地域に根ざした演奏活動も特徴的。99年、小澤征爾が桂冠名誉指揮者に就任。受賞歴に三菱UFJ信託音楽賞、ミュージック・ペンクラブ音楽賞等。2016年9月より指揮者・上岡敏之が音楽監督を務めている。この他、04年に音楽家・久石譲と立ち上げた“新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラ”で幅広い人気を集め、映画『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』『崖の上のポニョ』では管弦楽を担当。

公式ウェブサイト：www.njp.or.jp

公式ツイッター：[@newjapanphil](https://twitter.com/newjapanphil)

公式Facebook：[/newjapanphil](https://www.facebook.com/newjapanphil)

公式Instagram：[/newjapanphil](https://www.instagram.com/newjapanphil)

バルカン室内管弦楽団

バルカン室内管弦楽団は、2007年に日本人指揮者柳澤寿男によってバルカン半島の民族共栄を願って設立。2010年、ニューヨーク国連総会に伴うイベント「バルカン・リーダーズ・サミット2010」で演奏を披露。旧ユーゴ崩壊後の断絶された文化圏の貴重な橋渡しとなっている。2011年5月、ウィーン楽友協会ホール公演を実現。同年11月、国連の協力により、教育を受けないロマの子供たちとの共演を実現。2015年からはWorld Peace Concertをスタートし、世界各地でコンサートを行っている。

いかなる国にも本拠地を置かない室内管弦楽団は、音楽が共通の言語、共通の感覚として人々の心を繋いでいくことを強く願っている。

ビルボードクラシックスオーケストラ

ビルボードクラシックスが主宰する新しい音楽の創出に挑む演奏家たちによる特別編成オーケストラ。2015年以来、玉置浩二・八神純子・福原美穂プレミアム・シンフォニック・コンサートにおいて高いパフォーマンスを発揮。その豊潤な響きが観客を魅了し続けている。近年、サラ・ブライトマンとの共演をはじめとする先鋭的音楽活動が注目されている京都フィルハーモニー室内合奏団を中核に編成。新しい音楽を開拓する意思のもと、関東・関西の主要オーケストラから選抜した俊英演奏家たちが集結。

京都フィルハーモニー室内合奏団

1972年に結成。本年創立47周年を迎える。一人一人がソリストの個性派揃いのプロの合奏団。定期公演、特別公演、室内楽コンサート、子供のためのクラシック入門コンサート等を主催すると同時に、各地ホール・教育委員会・鑑賞団体・テレビ・ラジオ・芸術祭等に多数出演している。「クオリティは高く、ステージは楽しく」というポリシーを持った京フィルは、クラシック音楽の他に様々なジャンルの音楽もセンスある編曲を施して演奏し、多くの聴衆を魅了している。国内外の演奏家や指揮者と共演する一方、狂言、文楽人形、津軽三味線、尺八等の日本の伝統芸能とのコラボレーションや、俳優、タレント、落語家、漫才師等の異分野との共演も積極的におこない、“挑戦する室内オーケストラ”と大好評を博している。また創立以来、活動の柱としている学校音楽観賞会では延べ3,000校、190万人以上の子どもたちに楽しい音楽を届け続けている。京都市のパートナーシップ事業とタイアップするなど、積極的に聴衆の育成拡大に力を注いでいる。2000年に特定非営利活動法人(NPO)となる。

平成2年度 藤堂音楽賞受賞。2002年10月イタリアツアーで好評を博す。平成14年度 京都新聞大賞文化学術賞受賞。2015年度第3回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞受賞。平成28年度 佐川吉男音楽賞奨励賞受賞。

2006年から社団法人 日本オーケストラ連盟準会員。2019年度よりミュージックパートナーに柳澤

寿男氏を迎える。

九州交響楽団

1953年創立。1973年に改組、のち財団法人化を経て2013年から「公益財団法人九州交響楽団」となり、九州の常設オーケストラとしてアジアの交流拠点都市“福岡”に本拠地を置く。

初代常任指揮者・石丸寛(現・永久名誉音楽監督)。その後、森正、安永武一郎(現・永久名誉指揮者)、フォルカー・レニッケ、黒岩英臣、小泉和裕、山下一史、大山平一郎、秋山和慶が歴任し、2013年からは小泉和裕が音楽監督を務める。また桂冠指揮者に秋山和慶、名誉客演指揮者に小林研一郎を擁する。

アクロス福岡での定期演奏会をはじめ、天神でクラシック、名曲・午後のオーケストラの自主公演の他、中学生の未来に贈るコンサート、青少年向けのコンサート、オペラやバレエ、合唱との共演、ポップス、映画音楽、ファミリーコンサートなど福岡県を中心に九州各地で年間約130回の演奏活動を行っている。

2006年から「九響シリーズ」9タイトル、小泉和裕が音楽監督就任後「ベルリオーズ／幻想交響曲」、「ベートーヴェン／交響曲第9番」、「マーラー／交響曲第8番《千人の交響曲》」「マーラー／交響曲第3番」のCDを発売。

これまでに、福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞を受賞。